

68th Japan Independent Exhibition
国際企画展示

地の種

Seed of earth

◆ France

68th Japan Independent Exhibition
国際企画展示「地の種」II

Seed of earth

海を渡って来た種が

アンデパンダン展に飛んできた。

種を育てる土壌を

アンデパンダン展で耕そう。

固い土では芽が出ない。

春にならないと芽は出ない。

種は、柔らかい心にしか育たない。

狭い心には育たない。

種はどこからでも飛んできると。

(遠矢浩子)

今回も種を送ってくれたキュレーター

サポートの相田さん・田中さん・林さん

さん・Aimiさん・阪口さん・Rockさん

有り難う。

メッセージも有り難う。

日本美術会国際部

国立新美術館 2015.3.18~30(TOKYO)

主催:日本美術会

〒113-0034文京区湯島2-4-4平和と労働センター内

Tel 03-5842-5665 Fax 03-5842-5666

<http://www.nihonbijyutukai.com/>

E-mail nichibi@nihonbijyutukai.com

運営:第68回日本アンデパンダン展実行委員会(国順不同)



Aimi
canariadiamond@gmail.com Facebook:Artist Aimi

生後8ヶ月よりフランスと多数のフランス語圏で育ち、パリで美術とファッション・デザインを学んだ。個展は東京のOAG+HOUS、横浜日仏学院、南仏のロルグ、ギャラリーNIW等で、グループ展はパリのGalerie Etienne de Causan、Galerie Thuillier、Salon SNBA 2010、Salon D'Arts Actuels、東京のメトロポリタン美術館、ギャラリー・アートスペース銀座ワン、ギャラリー・クボタ、ギャラリーJ-Trip-Art等多数に出品。現在はパリと東京を行き来しながら活動をしている。

フランスは私の原点であり心の故郷でもあります。私は生後8ヶ月からフランスを中心に仏語圏で育ち、人種、国籍、宗教、階級やジェンダーを超えたマインドとスピリットに焦点を当てながら自分のアイデンティティーの探究を続けて来ました。そのマインドとスピリットは「地の種」の「地」であり、種をまく前に常にその土を広く柔らかく耕しておく必要があります。そしてそこにまく「種」は各自がこれまでにした様々な経験であり、その中からどの種を選びそれをどう育てて行くのかは全て私達自身に託されているこの上ない人生の大きな仕事であります。



主観的アイデンティティーの探究1



Hugues Gillet ユーグ・ジレ
Hgillet.peintre@free.fr HP: castledream.free.fr/expo/gillet.html

ユーグ・ジレの「饗宴」と「牧歌的なクンタウロス」の二作品は、幻想芸術を通して「地の種」というテーマの一つのヴィジョンを提示する。これら半人半獣的ハイブリッドな創造物は、来たるべき未来とは無関係に、ただ有りのままの自然を謳歌し享受しているかのようだ。ユーグは彼が写し出す世界を介し、地上における人類とその立ち位置に関し、我々を深い省察に導いてくれる。

ユーグ・ジレ(アーティスト・プロフィール)

1992年よりユーグは作品を通し自らの内面世界に物質的で客観化され、実体化されたフォルムを与えようと意図した。彼は人間の形や堅苦しく冷やかな顔を植物や鉱物の世界に合体させる。そうするのは新たな恐るべきヴィジョンを形にしたり、伝説や古代神話の世界を再訪したり、もしくは現世の証人となるためなのだ。

こうしたハイブリッド化は、超現実や超自然の感覚を表現した長い芸術的伝統が生み出した我々には馴染み深いものである。作品は主にフランスで発表している他、フェリエール城にある「空想美術館」、モナコ、日本、オーストリア、ドイツ、ポルトガル、スペイン等でも作品展示を行っている。彼はまた彫刻家のブルーノ・バラティエやクニヒコ・カノウと共に「幻想芸術」を旗印とした国際美術会<ARTIS FICTAE TURMA>を設立している。



ユーグ・ジレ 饗宴

◆ Germany



田中悦子 ETSUKO TANAKA
TEL 0176 3281 7531、
atelieretsko@googlemail.com

1954年 東京都立川市生まれ
1977年 女子美術大学絵画科洋画専攻卒業
1999年以降 ベルリンの画廊、教会、城館にて、個展、グループ展
2007年以降 調布ギャラリーみるめ、八王子ギャラリーヤスタクにて、個展
2008年以降毎年 ベルリンAtelier Etsko にて個展



「ゴヤ」油彩

ベルリンの壁崩壊25周年に当たる今年は、ベルリン生れの三人を紹介します。日本と違って美術団体もなく、団体展もないベルリンでは、個別の単独展だけが作品発表の場となります。今回の出品者三人はいずれも画家専業ではなく、働きながらの作画を継続して来ます。自分だけにしか描けない絵画の模索の連続ではありますが、批評の機会を得ることが少なく、いずれも孤軍奮闘です。近づいたかと思えば遠くに離れていく絵画に惑わされて。



Sira Ullrich : ジーラ・ウルリッヒ
atelieretsko@googlemail.com

1965年 東ベルリン生まれ
1990年以降 絵画及びグラフィックの個展
1994年以降 絵本の発行「Aと言った人は、、、」
2006年以降 講師(マスメディア美術、芸術治療)
2010年以降毎年 ベルリンAtelier Etsko にて グループ展、個展
絵画テクニックを排し、可能な限り原始的の作画方法を試行。
画家らしく描かないで、画家になろうという法外な野心を持っている。実践的唯物史観の色彩表現のつもり。



ジーラ・ウルリッヒ「花」水彩



Martina Winterle : マルチナ・ウィンターレ
atelieretsko@googlemail.com

1957年 東ベルリン生まれ
1979年 写真科卒業(ベルリン芸術大学)
1989年 美術教師資格取得
2009年以降 ノイスタット、ヴスターハウゼン、ノイルピンにて個展
2011年以降毎年 ベルリンAtelier Etsko にて個展
写真の無機性と絵画の有機性との混合による現代世界の状況説明を志している。人間をどのように表現するのが正当であるかを追求する知的絵画の難行苦行に邁進中。



マルチナ・ウィンターレ「ベルリン」写真



Peer Toralf Praefcke : ペール・トラルフ・プレフケ
atelieretsko@googlemail.com

1970年 西ベルリン生まれ
1987年 ベルリン施療院で絵画制作を開始
2005年 山梨県立美術館国際障害者展
2007年 調布ギャラリーみるめ、八王子ギャラリーヤスタクにて、グループ展
2008年以降毎年 ベルリンAtelier Etsko にて、グループ展、個展
作品に関するコメント
人を描いてるつもりが、動物に見えて来て、山を描いてるつもりが海に見えて来て、わけもなく流した色と色の交ぜ合わせが、人の言葉のように響いて来るような作品



ペール・トラルフ・プレフケ「山」水彩

◆ England



Emiko Aida 相田 恵美子
emiko.aida@tiscali.co.uk

2010 ウィークエンド画廊、ハイステイニング
2010 ビスケットファクトリー、ニューキャッスル
2011 第16回 スペース国際版画ビエンナーレ、ソウル
2013 エディンバラ芸術祭、エディンバラ、英国
2014 全英芸術公募展(第2位賞)、ロンドン、チェスター

私の画歴上、何度か画風の変化が自然にやって来た。現在の変化は今までの中で最大のものである。こちらの作品は、ちょうど変化が始まり出したことを示している。

今回は、私の友人二人と生徒一人の作品を提示します。テレサとマーティンは十年以上の付き合いで、一緒に展覧会を開いたりしました。二人とも版画家として活躍し、テレサは展覧会のコーディネーターの手腕もあり、マーティンは英国内で数多くの賞を受賞しています。エリザベスは趣味から始めた銅版画がセミプロの段階に到りましたが、癌により途中中止でした。いまは治療を終え、版画作りに復帰しました。今後の飛躍が期待されます。



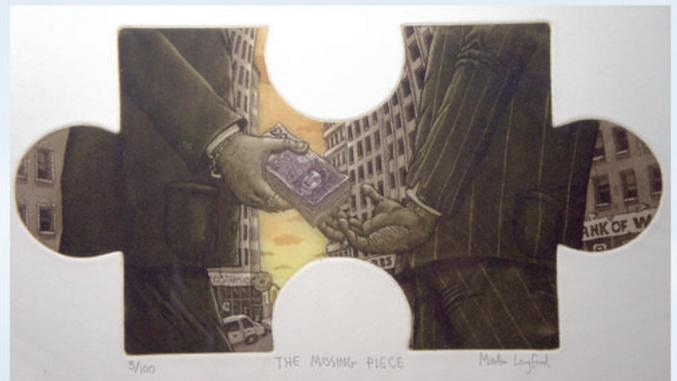
Happy Kitty 幸せ子猫さん Etching



Martin Langford マーティン ラングフォード
martinlangford70@hotmail.co.uk

2000-2001 タイバイ版画ビエンナーレ、台湾、
1998, 1999 デビットソン画廊、シアトル、米国
恒例の展覧会 / アーバンアート(街路展)、ブリックストン、ロンドン / ロイヤルアカデミー夏季公募展、ロンドン / オリジナル版画公募展、バンクサイド画廊、ロンドン

企業や組織の強欲な人や人々について作品で述べているように、私は考えることや強く感じることにイメージを創りがちです。私たちが環境上何をしているかにも興味があります。



The Missing Piece



Theresa Pateman テレサ バイトマン
theresapateman@hotmail.com

2013/14 マイクロトピア、細密画展、共同キュレーター、ロンドン
2013 パーピカン図書館、個展、ロンドン、英国
'93/2012/14 ロイヤルアカデミー夏季公募展
2011-14 アフォーダブルアート展、ハムステッドヒース(プリントメーカーズ インク)、ロンドン
2011 バイト、全英現代版画公募展、ロンドン

最近、円形で制作するのを楽しんでいます。これは自然とイメージの選択に大きな違いをつくります。いろいろな版種で制作しますが、ソフトグラウンドの銅板が好きです。



月訪問 2 Etching



Elizabeth Watt エリザベス ワット
elizabeth_watt@btinternet.com

2009-2014 ピクチャークラフト画廊、ノーfolk
2012-2014 キングスゲイト画廊、ウエストハムステッド、ロンドン
2005 スティブルス画廊、ドリスヒル、ロンドン
2007 ルウェリンアレクサンダー、ウォータールー、ロンドン

北ノーfolk、平地に広がる海と大空で知られる自然美、で生まれ育ちました。私の作品上重要な影響です。銅版画によって無数の効果を探し、深い喜びと満足を見出しています。



Evening Walk Etching

◆ Korea



林恵理子 Hayashi Eriko
erikoyon@gmail.com

2000 札幌国際版画ビエンナーレ (札幌市 日本)
2002 日韓現代女性展 (東京 日本)
2007 ゲント アートフェア (ベルギー)
2009 波止場の響き—色と線 (個展 横浜岩崎美術館 日本)
2012 日本アンデパンダン展、「地の種」展 (東京、日本)



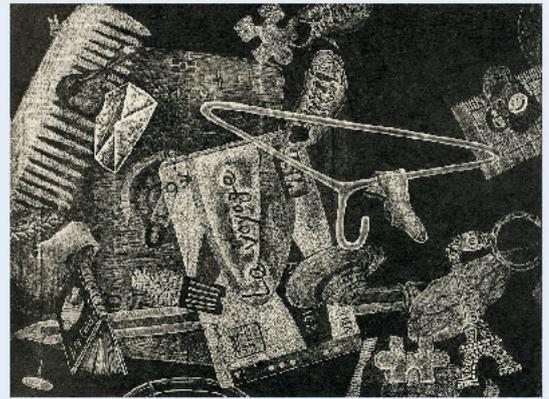
Sora he 2

韓国の版画は、作家自身の明確なコンセプトが強烈です。彼らに共通な点は、現在の自己を自然体でとらえ無難せずに、しかし明確に主張する点です。その為、観る者には圧迫感を与えるものの、すんなりと作家の世界に導きます。今回紹介の3作家とも、その魅力に溢れています。彼らの琴線に触れてみてください。



洪 允 Hong Yoon (ホン ユン)
zking52@naver.com

2006年 第一回個展 (韓国、ソウル)
2007年 第二回個展 (韓国、水原)
2008年 個展・引き出しの中の自画像 (韓国、ソウル)
2010年 小さな引き出し展 (韓国、ソウル)
人は、それぞれの心の中に引き出しを持っている。人生の瞬間瞬間を覚えている小さな引出を。
私は私の人生に関連する象徴的なもの、また毎日見て、書いて、触れる私の周りの物事の話を引き出しというテーマで表現しています。



ひきだし5-wooden engraving



黄正一 Hwang Jeongil (ファン ジョンイル)
aquamen75@gmail.com

個展 5回
主要グループ展
2009年 クラコウ国際版画トリエンナーレ (ポーランド)
2010年 オルデンパーク国際版画トリエンナーレ (ドイツ)
2010年 ウィーン国際版画トリエンナーレ (オーストリア)
作品は、モーションキャプチャリングカメラで使う鳥瞰図の視点で、群衆の動線を捕捉している。作品の中の通行人を独立した人格として観ず、ただ一つの点に過ぎない観方である。視点を異にしただけで、ただ一点で還元され、現代人の没個人的な運命を隠喩している。



Between Aquaint_Drypoint



金美路 Kim Miro (キム ミロ)
meerokim@hanmail.net

画歴
個展8回、グループ展60数回
韓国現代版画家協会 会員
現在、弘益大学版画科兼任教授
植物図鑑の各ページをエッチングで移し、薄い韓国紙に刷ったイメージを切り取り、更に他のページのエッチングに加える過程を繰り返します。この過程により新しく生まれるイメージは、客観的な資料が、個人の主観的解釈として別の意味を生んでいます。



Between The Pages 6 etching, chine colle

◆ India



阪口 史保 SAKAGUCHI SHIHO
info@bornfreeart.org

2014年 インドで児童労働の背景がある子ども達のためにアートによる教育を行うボーンフリーアートスクールと共同で、福島県からの避難者を含む日印アート交流プログラムを実施し、「ボーンフリーゲルニカ」を制作。



ボーンフリーゲルニカ

『地の種』に対するメッセージ：

インドでは経済発展の裏側で4人に1人の子どもが働き貧困の中で暮らしています。ボーンフリーアートスクールでは、そのような子ども達に絵画や彫刻等のアートを教え、日本のヒロシマやナガサキについても学んでいます。子ども達の「私は銃よりも絵筆が欲しい」という思いが地の種となって、日本に届くことを願って本作品を紹介させていただきます。



LAXMI TARA : ラクシュミ タラ
Bornfree Art School International
2014年 「ボーンフリーゲルニカ」制作

私は佐々木禎子さんのようになりたい。サダコさんは姉妹みたいな人。なぜなら、サダコさんは折鶴によって原爆と戦ったんだもの。私は平和を表現した絵で原爆を止めたい。
(ラクシュミはボーンフリーアートスクールで絵画と彫刻を学ぶ)



サダコは私のお姉さん



MALAIKA AMMU : マライカ アム
Bornfree Art School International
2014年 「ボーンフリーゲルニカ」制作

平和のために戦いたい、私達に「銃よりもペンを」。
そして、私は子ども達の改革の母となって、働く子ども達に自由と平和な状態をもたらしたい。
(マライカはボーンフリーアートスクールで絵画と彫刻を学ぶ)



平和を夢みる



JOHN DEVARAJ : ジョン デバラジ
Bornfree Art School International
johndevaraj@gmail.com

2008年 「アートナイン」を制作し、広島原爆資料館に寄贈
2013年 巨大絵画「一億人の十字架刑」を制作し、ピースおおさか(大阪国際平和センターへ寄贈)
2014年 「ボーンフリーゲルニカ」制作ディレクターを務める
2014年 絵画シリーズ「貧困の戦争」を制作

作品タイトル：三度許すまじ原爆を、我らの街に
人々の肖像に原爆の投下の後に何が起こったのかをシリーズで描きました。
私達は今も行われている戦争や暴力を注意深く感じとるべきです。
誰が殺されても場所がどこであろうとそれは私達の一部であり、人間性が失われていっているのです。だからこそ、私達は平和のために戦わなければなりません。
(ジョンはボーンフリーアートスクールのアーティスティックディレクター)



◆ Indonesia



Balio Rock
(Tokyo, Japan)
Balio88@yahoo.co.jp
<https://facebook.com/Balio.Rock>

2014: 第67回・日本
アンデパンダン展
2013: 第66回・日本
アンデパンダン展
2012: 第65回・日本
アンデパンダン展



Wayang Purwa • I

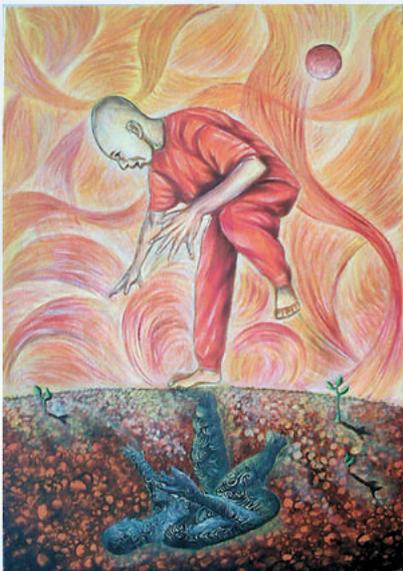
地の種」へのメッセージ

「たくさんの国から、ここ東京六本木の国立新美術館に、種が飛んできた。僕は、インドネシアから三名の作家を紹介したい。この三名が、しっかりと東京の地に根付くよう、一生懸命に水を与えたい。他の国から飛んできた種たちもきっとそぞろうな。観覧される皆様、日本美術界の皆様、ご協力のほどお願い申し上げます。そしてこれを機会に、早く「地の種」のフェイスブックが立ち上がるといいな！」



Edie Supriyanto
(Surabaya, Indonesia)
artinfo.es@gmail.com
<facebook.com/edie.syanto>

2014: Pameran From Art To Hero di Shao Gallery Grandcity -surabaya
2014: Pameran Rana Kehidupan di DKS Gallery Surabaya
2014: Pameran On the Spot di Hotel Santrian Sanur- Bali
2013: Pameran Bersama LESBUMI jatim di mall zippo sidoarjo
2012: Pameran Bersama @rtXpression di bukit darmo golf Surabaya



dancing with shadows I
acrylic on canvas



H.NUR CHOLIS
(Surabaya, Indonesia)
<facebook.com/hnur.cholis.3>

2014: Pameran Seni Rupa “Tanpa Narasi” di Orasis Art Gallery, Surabaya. : Pameran Lukisan Bersama “Javanesi@rt#3” di House Of Sampoerna, Surabaya.
2013 :Pameran bersama “Startingearth” di Darmo Golf Surabaya, April 2013 :Pameran bersama “J avanesi@rt#2 ”di Julian Nyland jakarta, November 2013
2012: Pameran bersama “Malam 1001” di Galeri Surabaya, Agustus 2012

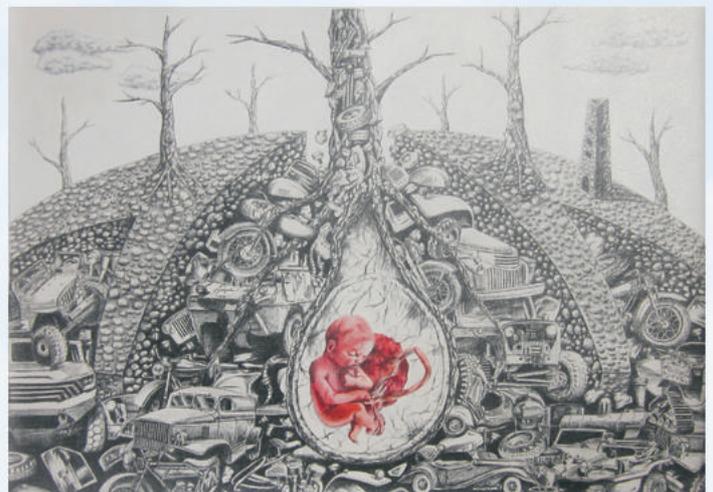


Zoo seri 2 ink on paper



Hengki Koesworo
(Surabaya, Indonesia)
hengkikoesworo@yahoo.com
<facebook.com/henk.indie>

2011 : Pameran “VISUAL/VIRTUAL” Di Dimensi Art Gallery Surabaya, Pameran Jatim Bienale #4 “TRANSPOSISI” Di Orasis Art Gallery Surabaya
2013 : Pameran Nusantara 2013 “Meta Amuk” di Galeri Nasional Indonesia, Jakarta-Indonesia.
Pameran Bersama The Idol of the Things (Berhala Benda) #1 “An Unexpected Objek: the Disorder of Things” di Gallery House of Sampoerna, Surabaya-Indonesia



NEW SEED



NIHON-BIJYUTSU-KAI (JAPAN ART ASSOCIATION)

Heiwa to Roudou center 9F 2-4-4 Yushima, Bunkyo-ku, Tokyo 113-0034 Tel 03-5842-5665 Fax 03-5842-5666
<http://www.nihonbijyutukai.com/> E-mail: nichibi@nihonbijyutukai.com